

定期学習会の記録

2008/02/16 尾間木公民館

〔参加者〕 三浦 安藤 金子 郡司 橋元 佐藤 河野 大内 今野

■ビデオ「ようこそボクらの学校へ」視聴

- アフガニスタンの少女（戦争被害）
- シオラレオネの少年（少年兵士）
- アルゼンチンの少女（ストリートチルドレン）
- エストニアの少年（麻薬）
- ロシア・チェチェンの少女（内戦被害）
- ザンビアの少年（エイズ被害）

・10代の学校に行けない子どもたちが、再び学校に行くようになる話など

○ビデオの感想など

・日本で毎日学校に行けることは、幸せなことなんだと思う。特に、アフガニスタンの少女が印象に残った。自分で勉強を続けて、再び学校に行きたいと願っていることに感動した。（郡司）

・アルゼンチンの話。貧富の差、軍を使って鎮圧するなど、政治の状況に衝撃を受けた。（橋元）

・紙などを集めている人のこと。日本でも空き缶などを集めているのを見ると、同じ状況のところがあると改めて認識できた。（安藤）

・水瓶を小さい子が運んでいるのを考えると、過酷さが理解できた。／ロシアの話。以前はロシア語を押しつけていて束縛していたわけだが、現在は逆の立場になっている。学校で起きているいじめと重なる部分があると感じた。（佐藤）

・どこの話も、自分の生活とはかけ離れていて、聞いたことはあっても改めて考えさせられる。遊んだり甘えたりしたい時期に、両親もいなくて一人で生きて行かなくてはいけない。泣きたくなることもあるだろうが、医者になりたいなど、夢を持って、悲観的にとらえず、前を向いて生きていることがすごい。強さを感じる。心が温まる。（河野）

・大人の影響の大きさを感じる。出会う人によって人生が左右されてしまうことを感じる。（三浦）

・日本の子でも、「医者になりたい」という子はいるが、家を継ぐとかいう理由が多いようだ。しかし、彼らは経験の上から、人類愛から「医者」を選んでいく。そういうヒューマニティ、根っこの部分が人間的であると感じる。生き方としていいなと思う。

・少年兵の話。日本の13歳の子に見せたい。その子と世界との架け橋としての種まきをしたい。人間って何だろう、勉強ってなんだろうということに気がついて欲しい。人間の賢さって、いろんな状況の中で対応できるような、感性の部分だと思う。（金子）

・少年兵の話。自分はリーダーになりたいと言った。国を救うにはリーダーになるしかない、という言葉に考えさせられた。（橋元）

・社会をよりよくしていこうと、本当に考えることができる人が「賢い」といえるのだろう。自然とか人とか社会にリンクしている必要があると思う。（金子）

・エイズなどの病気をなくすには、どうしたらいいのだろうか。（橋元）

・まず、病気のことを知ることが必要だと思う。（金子）

・どうしたらなくなるかを考えられるようにすることが必要なのだろう。原因を知って、対策を知ろうとすること、そしてそれが具体的な行動に結びつくことが大切だと思う。（橋元）

○エイズについて知っていることは何があるか。

- ・具体的にどういう病気なのかはわからない。(郡司)
- ・一般的にいわれていることは知っているが、詳しくはよくわからない(河野)
- ・母子感染、性的な感染、血液による感染。気をつければ感染しないのだが、無防備な人だったり輸血の検査を怠ったり、自分の感染に気づかず感染したり、知識がないことも広がる原因なのだろう。(金子)
- ・学校で教わることには限りがある。自分から知識を求めて行かなくてはいけない現状。(河野)
- ・エイズによって、抵抗力がなくなり、さまざまな病気にかかってしまう。病気の怖さ、防ぐ方法を知らないために広がるということも考えられる。薬を作るのは欧米で、高価。利害の関係も問題だろう。(橋元)
- ・経口補水液のこともそうだが、「知らせる」ことの大切さ。(金子)

○「賢さ」ってなんだろう

- ・日本の子ども達は、入試などのために勉強している人が多い。しかし、人のため、社会のため、誰かの命を救うために勉強しているんだ、という価値観をもって勉強すると、わかる楽しさに気づくのだろう。(金子)
- ・他文化を理解するときに押しつけになることがある。価値観の押しつけだと言われることもあるが、根本的な部分で、共通する部分がある。困っている人がいたら助けてあげるなどは、人間として根本的な部分だと思う。(河野)
- ・表面構造と深層構造。見た目の部分だけでなく、中身、心がわかることが大事。「賢者の贈り物」の話のような発想が、今の世の中から減ってしまっているような気がする。本当に人間にとって大切なものはなんなのか。意識を世界が持つことが必要。考え方を広げていくこと。(金子)
- ・一人のヒーローより、全体として平和な、賢い市民がいるほうがいい。(河野)

■自己紹介

■「JICA地球ひろば」での報告

- ・水がめが印象に残った。とても重く、毎日運んでいることを考えると、大変さがわかる。また、地雷が埋まっている数を知り、まだまだだと思った。(郡司)
- ・チョコレートが積まれていて、それが児童労働で作られているということを知り、衝撃だった。その子ども達は、それを食べることができないということに、気の毒さを感じた。(橋元)
- ・民族衣装が印象的だった。(安藤)
- ・地雷の撤去機などの展示から、地雷の怖さを感じた。(大内)
- ・地雷撤去の特集コーナー。実際に機械を作って行動するところに力強さを感じた。日本はお金を援助することばかりになって心のつながりが無い。そうではなく、自分の身をもってやっていることのすばらしさを感じた。(河野)
- ・日本は表向きにいろいろやっているが、その実…という感じが多いと感じていたが、日本の企業が貢献していることを知り、いいなと思えた。(金子)
- ・「字が読めて書けるということ。それは毎日を不自由なく送れるということ。それだけでなく人としての自信や誇りを生み出す力を持つということ。」という言葉が印象に残った。(金子)

・イベントの参考になると思った。橋を架けるなどの見せ方。体験して、目で見てわかるという工夫のしかた。自分でやることでわかることがあると思った。

・児童労働、少年兵などの状況についての写真が展示されていた部分が印象に残った。栄養についての展示。日本がムダになってしまう食料がとても多いという。給食の残り、コンビニの賞味期限切れ商品など。一方では余るなんてあり得ない、一日一日の生活をしている人がいることに、理不尽さを感じた。

・地雷のことでは、企業としてなんのために働いているのかということ考えた。自分たちの利益ではなく、企業をこうしていきたい、何かの役に立ちたいという目的で活動していることが印象に残った。中学校の先生はもっとがんばらないといけないという話。勉強とかそういうことではなく、もっと大切なことを教えないといけない。(阿部)

次回予定 3月1日(土)

★欠席・遅刻の時は、三浦まで連絡。